

1. 科目名 ( 単位 数 )	子どもと造形 ( 2 単位 )	3. 科目番号	SJMP2147
2. 授業担当教員	片岡 浩		
4. 授業形態	演習、講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本授業では、領域「表現」のなかの「造形」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。具体的には以下の事項について学ぶ。</p> <p>① 乳幼児の造形による表現の姿や、その発達を理解する。</p> <p>② 造形による様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、乳幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p> <p>③ 指導者として造形活動に携わる上で「造形基礎」について体験的に認識する。</p> <p>④ 五感表現、素材の特性を活かす「造形活動」について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>1) 乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。</p> <p>2) 造形を生成する過程について理解している。</p> <p>3) 乳幼児の素朴な造形を通しての表現を見出し、受け止め、共感することができる。</p> <p>4) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。</p> <p>5) 身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特徴を生かした表現ができる。</p> <p>6) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</p> <p>7) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。</p> <p>8) 様々な造形による表現の基礎的な知識技能を生かし、乳幼児の表現活動に展開させることができる。</p> <p>9) 「記号的・トレース的・模倣的表現」だけではなく「創造的表現」について認識し、学ぶ</p>		
9. アサシメント ( 宿題 ) 及びレ ポート課題			
10. 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】 榎英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 また授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。</p> <p>【参考書】 「幼稚園教育要領」平成 29 年告示文部科学省 「幼稚園教育要領解説」平成 30 年 3 月文部科学省 「保育所保育指針解説」平成 30 年 3 月厚生労働省編</p> <p>【教材】 制作道具・材料についてはオリエンテーション時や事前の授業で指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 子どもの表現に寄り添った造形活動の在り方について考えを深め、実践的な力がついたか。</p> <p>2. 子どもの造形表現の特色や、造形素材や題材化に関する知識が身につけられたか。</p> <p>3. 子どもの豊かな造形活動を支える基礎的造形力、技能が身につけられたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>授業への取り組み、製作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。</p> <p>1. 授業への積極的参加 総合点の 30%</p> <p>2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の 20%</p> <p>3. 製作や鑑賞活動の成果 ( 課題等 ) 総合点の 30%</p> <p>4. 作品発表、レポート等 総合点の 20%</p>		
12. 受講生への メッセージ	作業進度を観ながら進行する為、計画が変わる場合もあります。		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ( 授業内容、目的、評価、用意するものなど ) 自己紹介 【必要な道具】 必要な道具は前週に指示する	事前学習	教科書を一通り確認しておく。 また、自身の図画工作や美術の授業を振り返り印象深かった出来事について考える。そしてそれを踏まえ、自身が保育士になった際に子どもたちが豊かに、造形表現ができる環境設定を考える。
		事後学習	自身の子どもの頃からの製作活動を振り返り、思ったこと考えたことをまとめる。
第 2 回	造形基礎能力の認識 カタチの捉え方「動物を描く」 ルビンの壺で動物を表現する 顔写真撮影	事前学習	これまでの描画経験を振り返り、描画の基本について考える。基本的な道具の使用法を復習し、今後表現するための基盤とする。
		事後学習	授業で学んだ内容を振り返り、各自で準備した対象 ( モチーフ ) を描いてみる。

第3回	<p>五感による表現活動1</p> <p>スタンプング表現1 「カラフルにぼしの表現」 【必要な道具】 絵具、カッター</p>	事前学習	教科書、第4章-1を読む。 絵の具を用いた制作活動の経験を振り返り、印象深かった作品（自身のものでも作家のものでも構わない）を書き出す。制作に向けて、自分らしい色彩や表現について考え、構想をまとめる。
		事後学習	【授業内容との関連付けを図り、時間のある時に自分でつくってみよう】デカルコマニー・糸引き絵・ドリッピング・吹き絵による制作活動を振り返り、同様の技法が用いられた美術作品について調べる。また上記の技法を使用した、子どもの造形活動への展開を考える。
第4回	<p>五感による表現活動2</p> <p>スタンプング表現2 「手相を観察してペイントしよう」 【必要な道具】 筆、絵具</p>	事前学習	筆を用いない描画の経験を振り返り、印象深かった作品（自身のものでも作家のものでも構わない）を書き出す。制作に向けてモチーフや資料を収集する。
		事後学習	【授業内容との関連付けを図り、時間のある時に自分でつくってみよう】パチック・クレヨンスクラッチ・コラージュによる制作活動を振り返り、同様の技法が用いられた絵本作品について調べる。また上記の技法を使用した、子どもの造形活動への展開を考える。
第5回	<p>五感をつかった表現3 「右脳を使って表現しよう！」 「見て、触って、たたいて、嗅いで、味わってりんごを表現する」 みた色みえる色、におい、音、リズムを「絵具・水・紙」で表現する。 (第5回～第7回は継続した作業) 【必要な道具】 クレヨン、スケッチブック</p>	事前学習	教科書、第4章-2を読む。 ポップアップカードについて調べる。そして様々なポップアップカードのアイデアを書き出し、出来上がりのイメージとともに書き留める。
		事後学習	【授業内容との関連付けを図り、時間のある時に自分でつくってみよう】ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら制作に使用できそうなイメージを収集し、今回学習した技法を使用し作品を制作する。また実際の現場での利用の仕方を考える。
第6回	<p>五感をつかった表現2 「りんごの世界」 色彩による感覚表現 【必要な道具】 折り紙、のり、はさみ、スケッチブック</p>	事前学習	後日影絵を制作するにあたり、画用紙やハサミなどの各種素材に慣れる。また紙版画の下絵アイデアを考える。
		事後学習	【授業内容との関連付けを図り、時間のある時に自分でつくってみよう】紙版画の制作活動を振り返り、保育士として子どもが活動する際に気をつけるべきポイントをまとめる。また紙版画の技法を使用し作品を制作する。
第7回	<p>五感をつかった表現3 「りんごの世界」触覚による造形表現 触覚を手掛かりとする造形表現 【必要な道具】 新聞紙、のり、スケッチブック まとめ（りんごの仕上げ・サイン）と撮影会</p>	事前学習	教科書、第4章-3を読む。 今後、画用紙と版画用インク（または絵の具）を使用し紙版画を制作する際、どのような工夫ができるかを考えアイデアを書き出す。
		事後学習	【授業内容との関連付けを図り、時間のある時に自分でつくってみよう】紙版画の制作活動を振り返り、授業内で制作する作品以外に、実際の現場での活動・イベントにどのように利用できるかを考えアイデアを書き留める。
第8回	<p>視点を変えた立体表現1 アルミホイルとティッシュをつかった立体造形 「ルビンの壺～ネガポジ視点でかたちをつくる工夫」 「骨格を意識する」 【必要な道具】 ティッシュ、水彩絵の具</p>	事前学習	立体造形の基礎であるネガとポジの視点を認識する。
		事後学習	素材の特性を活用する意識を持つ。
第9回	<p>視点を変えた立体表現2 アルミホイルとティッシュをつかった立体造形 「ルビンの壺～ネガポジ視点でかたちをつくる工夫」 「骨格を意識する」 【必要な道具】 ティッシュ、水彩絵の具</p>	事前学習	立体造形の基礎であるネガとポジの視点を認識する。
		事後学習	素材の特性を活用する意識を持つ。

第10回	色水あそびとダンボール造形1 「カタチの見方、捉え方(鉛筆による表現)」 「水彩表現の基礎とコツ(絵具の混色)」 【必要な道具】水彩絵の具	事前学習	モチーフを選び様々な画材の「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する。
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現(鉛筆による表現、絵具の混色)について理解する。
第11回	色水あそびとダンボール造形2 「カタチの見方、捉え方(水彩絵の具による表現)」 「水彩表現の基礎とコツ(ネガ・ポジ視点)」 【必要な道具】水彩絵の具、のり	事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を画材の「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する。
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現(水彩絵の具による表現、ネガ・ポジ視点)について理解する。
第12回	造形基礎1 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～鉛筆の削り方・持ち方・カタチを捉える～」	事前学習	「本物そっくりに上手にかく」ことにどのような意味があるのか、自分の経験も振り返りながら考察し、まとめる。
		事後学習	①各段階における作業目標を意識しながら取り組み身に付けていく。 ②自分の経験値だけに頼った「わかつたつもり」の作業をしない。
第13回	造形基礎2 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～様々な種類の鉛筆を使いグラデーション表現を試みる～」	事前学習	現段階における作業到達点(技法と安全への配慮、カタチの見方・捉え方)を意識し理解し身に付けること。
		事後学習	現段階における作業到達点(グラデーション表現のコツ、カタチの見方・捉え方)を意識し理解し身に付けること。
第14回	造形基礎3 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～かたちの見方・捉え方～」	事前学習	現段階における作業到達点(道具の安全管理・扱い方、グラデーション表現)を意識し理解し身に付けること。
		事後学習	①各段階における到達目標と全体の作業段階の関係を理解する。 ②全体の作業工程とポイントを意識しながら身に付けていく。 ③誰にでもできるプログラムについて考察し、まとめる。
第15回	日本と世界の絵画 造形基礎1 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～鉛筆の削り方・持ち方・カタチを捉える～」	事前学習	教科書、第4章-4を読む。 中学校・高等学校において使用していた美術の教科書やwebなどを使用し、好きな作家・作品について調べる。その際に、その作品を好きだと感じる理由についても考える。
		事前学習	「本物そっくりに上手にかく」ことにどのような意味があるのか、自分の経験も振り返りながら考察し、まとめる。